

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】(ユニット2階)

事業所番号	2775002500		
法人名	医療法人 寿山会		
事業所名	グループホームヴァンペール		
所在地	東大阪市岩田町1丁目1番43号		
自己評価作成日	令和元年6月11日	評価結果市町村受理日	令和元年7月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 FGビル大阪 4階
訪問調査日	令和元年6月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

日常会話の中から入居者様の思いを汲み取り、個別ケアの充実を図っています。明るく楽しい我が家をモットーに、安心安全で快適な環境づくりを心がけています。ご自分で行えることは少しでも長く続けていただけるよう、他職種協働の下、個別の自主メニューを日々の生活の中に取り入れ頑張ってもらっています。ピンポンクラブも出来るだけ立って参加して頂き、楽しみのひと時として続けています。皆様上達されました。健康面では、24時間体制で日中は在宅医療科、夜間は提携の喜場病院での迅速かつ適切な対応があり、ご本人ご家族ともに喜んで頂いています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は地域福祉のブランド病院「寿山会」を母体とし、4階建ての2・3階に2ユニットで運営し、1階には広い研修スペースが設けられ、ユニット合同でイベントを行ったり、地域の餅つきや行事に開放して交流の場としている。徒歩圏内に法人の病院・老健・ケアプランセンター・デイサービス・有料老人ホームがあって診察やリハビリを受けられ、連携した支援体制は家族・利用者の安心を得ている。開所時からの管理者は、利用者へ過剰サービスしないで自立した生活をしてもらいたいと、職員・利用者共に月1回ピンポンクラブを開催したり、壁一面に飾られた折り紙の制作や、自分で食事をしている110歳の利用者の生活に寄り添った日常を支えている明るい事業所である。職員は全員が常勤で、法人のスキルアップの支援やラダー(キャリアアップ)評価を受けられ、丁寧な介助を行っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある			○	3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・私たちは地域に根差した家庭的なケアを提供することでご入居者様が自立した尊厳ある生活を過ごしていただけるよう支援いたします。 ・私たちはご入居者さま一人ひとりを尊重し、安心して笑顔で暮らしていただける憩いの家づくりを目指します。	左記の理念「・私たちは地域に根差した家庭的なケアを・・・支援します・私たちはご入居さま一人・・・憩いの家を目指します」を、フロアに掲示して実践につなげている。今後は会議時でも話し合うとしている。法人理念を名札に書き込み、クレド(信条)として朝礼時に唱和している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の保育所の訪問や自治会に加入し、回覧板を回して頂き地域清掃や行事(お祭り等)に参加させて頂いている。	自治会に加入し、祭りや地域の清掃活動に参加している。保育園児が訪問したり、楽器演奏や踊りのボランティアも訪問してくれている。大阪医療福祉専門学校の実習生の受け入れもしている。地域の人とピンポンを楽しんだり、らくらくトライ体操をして交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	夏祭りやおもちつきで施設を開放している。運営推進会議で常に地域の力になることを発信している。地域を巻き込んだピンポンクラブに取り組んでいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ミーティング等で報告し意見交換を行いサービスの質の向上に役立てよう努めている。	会議は、2か月に1度日程を決め、自治会長・福祉委員・民生委員・地域包括支援センター職員・家族・職員が参加して、事業所の現況報告や行事報告を行い、意見やアドバイス・情報をもらって運営に活かしている。議事録は丁寧に記録されていて、今後は入り口に置いて開示するとしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	連絡や相談を行い、会議や研修等に参加している。	市の高齢介護課に分からないことを電話で尋ねたり、研修の案内を受けて参加している。年2回の地域密着型事業所部会に参加して同業者と交流し、情報を得たり空室状況の連絡を受けるなど、協力関係を築いている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員全員が身体拘束をしないケアを意識し実践している。ホーム前が交通量の多い国道であり、利用者の安全を考え家族の了解のもと電子錠を設置している。	マニュアルを整備して研修会を実施し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。ミーティングで確認して丁寧に声掛けし、スピーチロックにはお互いに気を付け注意合っている。玄関・フロア間は安全上カードキーを設置しているが、近くの公園に出掛けたりして閉塞感のないケアに努めている。運営推進会議時に身体拘束適正化委員会も開催している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修を通じて学び、ミーティング等で話し合い、意識を持ってケアに努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修等で学ぶ機会を持ち、活用できるよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所前より十分説明し話し合い、同意を得られるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時には、積極的に声かけを行い、玄関には苦情箱を設置し適切な対応を心掛けている。	利用者との日常の会話の中で、利用者の要望を聞くようにしている。家族の訪問時や電話を掛けて話を聞き、申し送りノートに記録して職員間で共有している。利用者の担当職員が決められていて、利用者の写真や日頃の様子と、行事予定を手紙に書いて家族に送っている。さらに個人記録を用いて家族と話す機会を作りたいとしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	常日頃から職員とのコミュニケーションに心がけ、日常業務中の会話やミーティングで意見を吸い上げ運営に反映させている。	ユニット会議で職員の意見や要望を聞いたり、日常の業務の中でも話す機会を作り、管理者は職員のストレスのないケアに配慮している。年2回の管理者面談があり、スキルアップの為に法人の教育部会による支援を受けることが出来、ラダー（キャリアアップ）評価がある。職員はレク委員・安全委員・教育委員・記録委員を担当し、意識向上につなげている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人全体で、ストレスチェックなどを行い職場環境、条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各々のスキルアップの為に、本人の希望を汲み、法人内外の研修に参加する機会を多く作るようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	相互訪問や勉強会への積極的参加にて、サービスの質の向上を目指しているが、なかなか行えていないのが現状である。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	日常生活の中での会話や談笑の合間に本人の思いを汲み取るように努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時には積極的に声かけをし話しやすい雰囲気作りを心掛け、傾聴の姿勢でいい関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	会話の中から要望を汲み取る努力を行い、適切な対応を心がけている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に食事の支度や後片付け、洗濯干しなどを行いコミュニケーションを図っている。して頂いたことへの感謝の気持ちを伝えている。人生の先輩として敬い学ばせて頂き敬意を表している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時は必ず声かけをし、本人のご様子をお話し交流を持ち、家族の気持ちを共感することで信頼関係を築くよう努めている。又何かあれば電話やメールで随時連絡をしている。月一回ホーム新聞を送付している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方の面会時には、ホームでの暮らしぶりを伝えるとともに昔話を尋ねたりして、再び訪問して頂けるような関係作りに努めている。	近所の馴染みの人が訪ねて来たり、家族の訪問を受け、一緒に美容院や喫茶店に出向いて、墓参りにも出掛けている。利用者の希望で親戚の人に会いに行くなどの個別支援は、職員が付き添いをしている。利用者との日常の会話から把握して、馴染みの関係の支援が出来るように努めている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	居室に引きこもらないよう職員が気配りし、レクリエーションや散歩・外出などを行い共に楽しんで頂けるよう支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者や家族の迷惑にならない範囲で関係を続けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中から職員が利用者の思いを汲み取り、できることできないこと、好きなこと嫌いなことなど見極め利用者本位の支援ができるよう職員全員ミーティング等で話し合い共有し把握に努めている。3か月に一度多職種カンファを開き意見交換を行い、本人の思いに近づけるよう努力している。	面談時に家族や利用者の希望を聞いて作成したアセスメントシートを参考に、職員間で話し合っ共有して支援に努めている。日常の行動や会話の中から思いを汲み取り、利用者本位のケアにつなげている。3か月に1度、看護師・鍼灸師・計画作成者・職員で話し合い、利用者の思いに沿えるように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者との談話や家族との会話により、情報を取得し把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録やカンファレンス等で情報を共有し把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ミーティングや家族及び関係者との話し合いで意見・情報交換を行い、介護計画に反映させるよう努めている。多職種カンファでの意見も有効に取り入れている。	アセスメントシートを基に作成した介護計画書を家族や利用者と話し合い、医師の意見を参考に、関係者の意見を取り入れ、3か月に1度モニタリングをしている。6か月に1度定期的に介護計画書を見直し、変化があれば随時見直して、現状に即した計画書を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録を残し、職員全員が目を通すことで情報を共有し、実践や介護計画の見直しに反映させるよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況及び要望に応じて連携する老健施設や有老ホームの行事に参加したりと設備を利用して柔軟な支援に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の理容室を使っでの訪問理容、スーパーでの買い物、喫茶店、甘味処や寿司屋での飲食やまた近隣の公園に散歩などで地域資源を活用している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族が同意され同法人の病院の往診を月2回、訪問歯科を月1回受けられている。他科受診の必要が生じた場合は希望の医療機関で受診できるよう配慮し、受診時付き添いも行っている。	入居時に本人・家族などの希望を尊重してかかりつけ医を決め、同意書を得ている。法人の系列施設からの入居者が多い為、法人の協力医療機関を選択することが多い。内科医の往診が月2回、歯科医・歯科衛生士2名のチームが、診察・治療と口腔ケアを指導する往診が月1回ある。3名の利用者には眼科医の往診が月1回あり、耳鼻科の通院は家族の支援を得て行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	24時間体制で連絡が取れるようになっており、体調の変化等あれば相談できる体制が整っており、適切な対応に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	病院が母体の為、バックアップ体制が充実している。色々な事案に柔軟に対応してもらっている。迅速な入院対応や適切な時期での退院調整を行える様連携を図っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「できること・できないこと」を見極め主治医の往診とともに他の利用者に配慮を行いながらチームとしての支援を目指している。家族には入居時書面で同意を頂き職員全員で方針を共有している。日頃から意識をし心構えをしている。体調変化時にはその都度家族の意向や希望を聞き直し、話し合いをするようにしている。	重度化や看取りに関する指針を文書化し、入居時に同意書を得ている。利用者の状況の変化に応じて、家族・主治医・看護師と話し合いの上、段階的な合意に努めている。重度化で入院した際にも、当事業所で終末を迎えることを希望される場合は、シフトに考慮しながらチーム全体として対応にあたる。これまで3例の看取りを行い、葬儀まで居室に花を飾るなど、故人との別れを惜しんだ。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルの確認・訓練を定期的に行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災マニュアルを整備し周知している。消防訓練や避難訓練等、地域の消防署の協力の下行っている。地域の自治会長や隣人様には声かけし、協力をお願いしている。	避難訓練は年2回、同じ建物の4階にある別ホームと合同で実施し、5月には消防署の立会の下で実施して有益な助言も得た。昨年9月の台風時には3日間の停電を余儀なくされ、非常時の問題点が分かり、地域との防災協定や水・食料品備蓄も見直し検討中である。居室のタンスの固定化は既に完了している。道路を挟んだ至近距離に法人の病院や老健があり、人手さえ確保出来れば車椅子での迅速な避難も可能である。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩としての意識を常に持ち対応している。法人内で待遇委員会を持ち奨励している。個人情報の取り扱いについては職員全員が周知徹底し十分注意している。	利用者の人格を尊重するケアは、寄り添いの観察からも十分感じることが出来た。プライバシーに配慮した言葉遣いについて、ケア時に不適切な言葉が出た場合にはお互いに注意するチームワークが出来ていることが観察出来た。法人内に接遇向上チームが設置され、抜き打ちで事業所内を視察し、年間の優良職員を表彰するなど、適切な接遇への取り組みを行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	質問の仕方やゆっくり話す等工夫しながら、本人の思いを引き出し自己決定できるよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	各利用者のペースを尊重し、その日の体調等にに合わせて個別に配慮した支援を心掛けている。本人と家族の希望により実費で半日デイ、一日デイに2名通われている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理美容院は家族様と行かれる方以外は同意の上訪問理容を利用している。外出時化粧品、入浴剤、洋服等を一緒に選び購入されることもある。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりに合った食事形態の提供を行いできるだけ自身で食べて頂けるよう配慮している。ゆったりとした雰囲気作りを心掛け、利用者のできる範囲で調理や盛り付けに参加してもらっている。三食共チルド食で提供している。	食材は、大手介護給食業者から1日3食共チルド食を納入して、事業所の台所で、ご飯、汁物以外の食材を湯煎し、食器に盛り付けて利用者に提供している。入によっては、ミキサー食・ゼリー食や一口おにぎりなどを提供している。法人としては、限られた人員の中で、職員はより介護に注力してもらうため、調理は省力化する方針とのことである。	介護と調理どちらに重点を置くかは、事業所の考え方次第であるが、グループホームでの食事は利用者にとっても最大の楽しみの一つであり、楽しみを満喫できる工夫を望みたい。月に何度かは焼きそばやちらし寿司などを利用者と共に調理し、みんなで作った料理の味を楽しむ食事レクの充実や工夫を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	経過記録を見ながら状態に応じてミキサー食やゼリー食での対応及びトロミ剤の活用、お粥やイオンウォーター、ココア等をお出ししている。ご家族がヤクルトを持って来られる方もいる。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者の力を引き出しながら、食後の口腔ケアの支援に努めている。義歯もボリデントで洗浄している。舌ブラシも使用。法人内の歯科による管理指導あり。嚥下能力が悪くムセがある方、残滓物が多い方はスポンジブラシも使っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	経過記録表により個々の排泄パターンを把握し、声かけ誘導を行っているとともにプライバシーにも配慮している。日中は自己パンツ夜間はリハビリパンツ、パットに関しては大・小と使い分けている。	把握している利用者個々の排泄パターンに従い、プライバシーにも配慮してトイレへ誘導し、排泄の自立支援に努めている。現在、日中はリハビリパンツの利用者が大勢で、布パンツ使用は2名である。夜間はパッドとオムツ使用が各1名で、ポータブルトイレの利用者は2名である。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給に努め、メニューや形態に工夫をしている。毎日ラジオ体操やDVD便秘予防体操等で身体を動かす機会を作っている。毎日10時には牛乳をお出ししている。ユニット内歩行練習等積極的に取り入れている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者の状態を見ながら週2回をめぐに支援している。ゆったりと満足されるまで湯船につかって頂いている。安眠につなげるため、寝る前に足浴をしている方もいる。リフト浴を導入し、今まで湯船につかるのが危険で困難であった方もできるようになった。	入浴は基本週2回をめぐにしている。3方から介護出来る個浴にリフトを取り付けることで、新たに2人が湯船につかれるようになった。入浴を拒否する利用者には時間や担当を替え、家族が来ている場合は家族に促してもらうなどの工夫を行っている。場合によっては、シャワー湯、清拭、就寝前の足湯を行うこともある。ゆず湯やしょうぶ湯も季節ごとに行っている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	いつでも自由に自室に戻り休息を取って頂いている。日中はなるべくレクリエーション参加を促し活動性を高め、昼夜逆転にならないよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員全員が定期薬・頓服薬を把握しており、その服薬による症状変化の観察に努めている。服薬時は必ず声を出し、職員二人で確認をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活の中からその方の力量や好みを把握し、外出支援、他ユニットへの訪問、カラオケや貼り絵で楽しみを、また副食盛り付け、洗濯ものたたみ等力を活かせる場面作りを心掛けている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や買い物に行ったり、外に出て余暇を楽しむ気分転換を図れる機会をご利用者全員が多く持って頂けるよう支援を強化している。	日常的な外出は、近くの公園への散歩、駅付近の商店街への買い物などがある。外出の頻度は、家族のアンケートからもホームの自己評価(アウトカム項目)からも少ないことが窺える。外出はどうしても入居者1人に職員1人の支援が必要であることから、全員が満足することは困難ながら、気分転換や五感の刺激などの為に機会を増やすことが望まれる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物などの際に職員が見守りながら本人が支払いされるなど個々に応じた対応を心掛けている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば電話をかけたり、手紙を代筆したりしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾ったり、壁や居室入口には利用者が作成した貼り絵やカレンダー、また行事の写真等を掲示し明るく楽しい雰囲気作りを心掛けている。窓のカーテンは二重にし、日が差し込む時はレースのカーテンで対応したり、明るさも照明で調節したりしている。	食堂・居間には、大・小テーブルやカウンター席などもあり、各人がそれぞれ好きな場所で食事・おやつや作業などが楽しめる。また、食堂・居間から離れた共用部にソファを置き、歓談を楽しむ憩いのスペースが確保されている。台所はアイランド方式で狭いながら周囲を回遊することが出来、各コーナーに名称などを付け(神社もあってお参り出来る)、マップを回遊して、リハビリや気分転換を図っている利用者もいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用部分にソファを置き、気の合った利用者同士が会話・交流できるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物や家族写真等を持ってきて頂き居室に置いたりして我が家となるよう工夫している。好きな本がびっしり入った本棚をお持ちの方もいる。	居室は1フロア8室で、若干広く感じる。居室には、予めベット・ダンス・洗面台・冷暖房機・防火カーテンを当事業所で用意しており、その他は入居者の希望により、思い出の家具・備品を持ち込んだり、手作り作品を壁に貼ったりして、各人がそれぞれ過ごしやすい我が家を演出している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	障害物を置かず、廊下やトイレ、浴室等に手すりや滑り止めを設置し、分かりやすい掲示をし個々の身体機能を活かし自立した生活が送れるように工夫している。身体能力の変化時には環境アセスメントをリハビリと連携して行っている。		